

## 第 37 回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」 審査結果

第 37 回「全国児童 自然体験絵画コンテスト」は、2025 年度 6 月 23 日から 9 月 12 日の期間、自然の中に出かけた時に発見・体験したことや学んだことを描いた作品を募集しました。

絵画コンテストは、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団（YMFS）により、子どもたちが水辺へ出かけ、新たな発見・体験をする機会を創出するとともに、表現することを通じて感性を育むことをめざし、平成元年より毎年実施しているものです。

全国各地の幼稚園、保育園、小学校、絵画教室などから、合計 5,580 点という多くの作品が寄せられました。（昨年 7,132 点）

10 月 9 日、10 日に開催した 1 次審査会では 330 点が選ばれました。

さらに 2 次審査会を通過した 150 点の作品からは、10 月 23 日に開催した最終審査会において、入賞作品 23 点が選ばれました。

### 入賞作品選考

日時 2025 年 10 月 23 日（木）

場所 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）

入賞作品は、2 次審査会を通過した 150 点の作品の中から、「文部科学大臣賞」「国土交通大臣賞」「環境大臣賞」「農林水産大臣賞」、「特別賞」、「優秀賞」の合計 24 点が選ばれました。



審査員の皆様



審査委員長 国広富之画伯



審査風景

## 国土交通大臣賞

高田 奏（岐阜県）

### カブトガニだー！！

岡山県の笠岡市立カブトガニ博物館で、希少な「生きた化石」カブトガニについて学んだ後、海岸近くの道を歩いていると、たまたま本物のカブトガニを発見して大興奮！！海の不思議さを感じたミラクルな体験でした。

### 選考者のコメント

安堵城 勝俊様（国土交通省 港湾局 海洋・環境課 専門官）

どれも素晴らしい作品でしたが、まず目を惹かれ印象に残ったのがこの絵に描かれているお子さんの表情でした。博物館でカブトガニを見た後に海岸を散歩していたという状況下のなかで、“本当にカブトガニがいた！”という言葉がこの作品から聞こえてくるようです。また、お子さんの“びっくりした”という心情が描かれたカブトガニの大きさから伝わってくるようで、本当に素晴らしい作品だと思いました。



## 特別賞

### 審査員長賞

小林 廉（兵庫県）

### あこがれのカブトムシ

仲良しのお友達と近所の雑木林に虫取りに行きました。探し続けていたカブトムシをようやく見つけることができました。自分達で採ったカブトムシは、どんな虫よりもカッコいい。この貴重な体験は一生の宝物になりそうです。

### 選考者のコメント

国広 富之様（俳優、画家）

まずはインパクト、対象物を画用紙からはみ出さんほどに思いっきり大きく描いています。今やカブトムシはホームセンターなどで売っていますが、子どもたちの表情から自分が散策して見つけて捕まえたという興奮が伝わってきます。さらに全体の色使いもよく、カブトムシ自体の表現もかなり忠実に上



手に描けている素晴らしい作品です。

**日本マリーナ・ビーチ協会 会長賞**

大友 遥（兵庫県）

**たくさん、見つけた！**

家の近くのすま海がんで家ぞくと、しおひがりをしました。たからさがしみたいで、すごく楽しかったです。弟ときょうそうをして、たくさん見つけました。見つけたアサリは、家で Pasta やスープにして食べました。また、しおひがりに行けたらいいなと思っています。

**選考者のコメント**

山下 雅人様（一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会 常任理事）

昨今は室内で遊ぶ子どもたちが多い中で、外に出て太陽の下で遊んでほしいものですが、まさにこの作品は海岸に家族が集まって明るい太陽の下で楽しんでいる作品です。ゆくゆくはこのビーチからマリーナへ、そして海上に出て遊んでいただきたいという思いを込めてこの作品を選びました。

